

近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなくお母さんの声
一本の小枝で結ぶ地域の世代
一本の小枝が渡す地域と区政

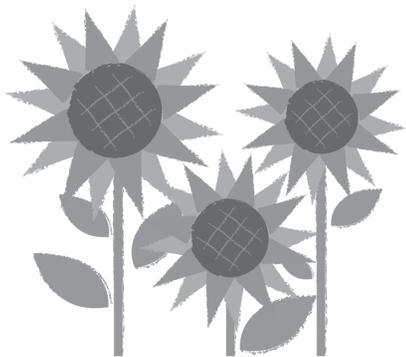
*** No.42 2023年8月発行 ***

今年も暑い夏がやってきました。豪雨被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

皆さまの温かいご支援・激励の声に応えることができず、区議会議員選挙において私は1,557票の次々点で落選してしまいました。ご支援いただいた皆さまには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

20年前、私が初めて議員になった時に作成し始め皆さまにお届けしているこの「小枝通信」は、私の本名の「小枝子」の「小枝」を名付けたものです。「小枝通信」の右上にいつも載せている文章、お気づきですか。

一本の小枝がつなくお母さんの声
一本の小枝で結ぶ地域の世代
一本の小枝が渡す地域と区政



これらを銘として私は活動して参りました。今回残念ながら「地域と区政を渡す小枝」は折れてしまいましたが、他の二本の小枝は健在です。「子育て中のお母さんの声（お父さんの声も入れましょう）」「地域の異なる世代」皆さまの声に耳を傾けながら、日々の生活を少しでも良くしていくこと、真面目に働く人々が報われる社会を築いていくことに今後も力を注いで参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。暑さの折、皆さまどうぞご自愛ください。

ご挨拶

いつも温かいご支援・ご指導をいただきありがとうございます。

今回4月23日投票の中野区議会議員選挙で、近藤さえ子は落選してしまいました。ご支援いただいた1,557人の方々には大変申し訳なく思っております。全て私の不徳の致すところ です。

私は、父近藤正二の「私たちに身近な政治は住民自身のためのものであり、政党の利害に振り回されてはならない」との意志を継いで、無所属の立場で5期20年にわたって区議会議員を務めてきました。例え議会の中でたった一人になろうと、「本当の住民の声はここにある」と訴え、私なりに精一杯、身近な区民の声を区政に届けてきました。ただ、その声をもう少し広めることができなかつた、広げる努力が足りなかつたことが敗因であったと思います。今回も政党所属の候補がたくさん当選されました。私たちに最も身近な区議会が、国会の政党政治と同じ様相を呈してしまい、政治が住民自治から離れていくことを危惧する声も寄せられています。

私は2004年犯罪被害者遺族になって以来、「犯罪被害者等相談支援窓口」の創設・「犯罪被害者等支援条例」の制定・「被害者ノート」の作成等、犯罪被害者等の支援に確実な成果を上げてきました。被害者だけではなく、貧困・孤独・高齢など、個人が突然弱い立場になった時、助けることのできるシステム作りを自治体に求めて取り組んできました。他に、児童館、教育、環境問題、税金の無駄遣いをやめさせる等、多くの成果を残してきた自負はあります。

私の落選は中野区民だけではなく、他自治体の職員、共に仕事をして来た多くの方々から惜しまれ、これまでの仕事を評価していただいています。大変ありがたく、身に余る光栄です。

自分一人ではどうすることもできない状況に陥ることは、いつ、誰の身に起きても不思議ではありません。そこをフォローし、住民の安心・安全を守ることこそ私たち身近な行政が負うべき責務だと私は考えます。落選は我が身に厳しい結果でしたが、私は元気です。今後4年間中野区議会からは離れますが、これからも皆さまと共に、社会的意義のある活動を行なって参る所存です。

どうぞ今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

私の議会報告

近藤さえ子は2023年第1回定例会で以下の質問をしました。
今回、区議ではなくなりましたので、この欄はしばらく休みます。



第1回定例会

一般質問(2023年2月15日)

1. 子育て先進区について

区は「子育て先進区」を目指す取り組みを始めた。

子育てしやすく、子どもに優しい街を作る考え方は、私も大賛成である。しかし経済的に自立出来ない、また仕事との両立の難しさを理由に、結婚や子どもを持つことを諦めざるをえない若者たちの存在には全く触れていない。

「子育て先進区」の主役になるはずの若者たちの多くが非正規雇用や仕事がない状況で、「結婚したい」「家庭を持ちたい」と思っても、将来を不安に思い諦めている。

若者が経済的に自立するための就労支援を重要な施策と捉え、スピーディに取り組む姿勢を示してはいかかがか。

区長答弁 若者と区内事業者等とを結びつける機会を確保すると共に、他都市での先進事例等を参考にして研究して行きたい。



2. 再犯防止の取り組みについて

どんな凶悪な犯罪を起こした者も刑期を終えれば出所して、我々と同じ一般人として地域で生活することになり、加害者のその後の更生を国から任されているのは地域の住民たちである。

罪を犯した人が地域に戻り生活するにあたり、区は、決して地元地域に任せきりにすることのないように対応しなくてはならないと思うがいかがかがか。

区長答弁 再犯防止推進支援者研修会の継続開催や、すこやか地域ケア会議での事例検討を重ねていきたい

現在、近藤さえ子は、国への要望書提出など、再犯防止のための法の整備に取り組んでいます。

予算総括質疑(2023年2月22日)

1. ブロック塀の安全対策について

近藤 著しく危険なブロック塀が多く残され、通学路に面している箇所もある。早期に改善していただきたいが、何が支障になっているのか。解決のための取り組みも併せて伺う。

塚本建築課長 古いブロック塀を撤去しフェンス等にする場合、道の中心から2m離れて構築する(セットバック) 必要があり撤去が進まない。ブロック塀の所有者に安全性に対する理解・責任を認識してもらうよう意識啓発や情報発信を行いたい。

2. 子ども施設のあり方について

近藤 2021年第85号議案(朝日が丘・大和西・新井薬師・弥生の児童館を廃止する条例)は議会で否決された。かつての全児童館廃止政策で、児童も学校も地域の人にも軸をキッズ・プラザに移行し、建物は老朽化し、職員も採用せずに来た。児童館は単なる児童の遊び場ではなく、子どもたちの健全育成に関わる地域の共同体が存在して初めて成立する。その意義をきちんと説明し、4つの児童館を廃止する条例を再提出するべきではないか。

ただ、児童館を使えなくなってしまう児童が出ないよう、例えば大和西児童館等は、美鳩小学校のキッズ・プラザの分室のような機能にすれば良いと思うが、どうか。

細野育成活動推進課長 分室については検討が必要である。地域の児童の健全育成を守る場として効率的に運営をしていきたい。

その後6月30日の子ども文教委員会において、現在18館ある児童館はすべて児童福祉法上の児童館として残すことが示された。区の直営館と民間委託館に分け、機能面でも違いを持たせる方針である。
全ての児童館を残すには財政的・質的な面についてしっかり検討する必要があると私は考える。



<http://saekonikki.exblog.jp/> 日々の活動をお知らせしています。



ブログ小枝日記↑

今後もこのブログ「小枝日記」は続けていきたいと考えています。どうぞお声をお寄せください。

3月23日 100歳の誕生日

ご近所の方が今日で100歳になりました。私が幼い頃から「さえちゃん、さえちゃん」と可愛がってくれました。お顔を見に行くと、嬉しそうに私の父の話をしてくれました。

今でも食事の支度も掃除もする、人に頼らず出来ることは全部自分でやる。「長生きの秘訣」がわかる気がします。どうぞ、これからもお元気で日本一の長寿を目指していただきたいと思います。



後日談

国から100歳のお祝いに『銀杯』を授与された彼女は、「いくつまで生きたら『金杯』がもらえるのかしらね?」と言って笑っていました。

4月30日～ 選挙後の皆さんの声

落選後多くの方から様々なお声をいただきました。私の力不足のために、皆さんが大切にしてくださった1議席を失ってしまい、本当に申し訳ございません。

「区民は何を見て投票しているのだ!」「近藤正二さんの『二十世紀に生きた記録』を読み返し本を抱きしめて泣きました」

「Democracyならぬ Powercracy(思想家内田樹氏の言葉)自分の1票では社会は変わらぬと諦め、権力のあるところに流されていく無気力状態が蔓延しています」「私も住民運動をしてきたが、政党のためではない政治、普通の住民の感覚が大事なのです」

「孫には黙っていましたが、小学校で落選を知ってしまひすごく悲しんでいました」(小さなファンを悲しませてごめんなさい)

「何も考えず投票した人たちに負けないでください!」

数々の温かい励ましのお言葉に感動し救われる思いです。ありがとうございました。

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子 プロフィール

前中野区議会議員(5期) 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 故近藤正二(区議11期)次女 趣味テニス

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com